

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100103		
法人名	株式会社 アルテライフ		
事業所名	グループホーム えがおの花大釜(あやめ)		
所在地	〒020-0763 岩手県滝沢市大釜大畑72番地6		
自己評価作成日	令和4年11月19日	評価結果市町村受理日	令和5年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家族を入居させたいと思えるような施設を目標に、入居者様やご家族様とより良い関係を築けるよう心掛けています。職員が全て介助するのではなく、共同生活の中でその人の役割が持てるよう、色々な事を職員と行ってみたりします。各ユニットごとに誕生日会を開き、希望の誕生日メニューのお食事を提供したりしております。新型コロナウイルス感染症予防の為外出を控えているので、施設内で体を動かせるように午前はラジオ体操、午後はごぼう先生のDVDなどを使い歌に合わせて体操を行っております。その他に施設の畑でトマトや人参、サツマイモ等のいろいろな野菜を入居者様と一緒に育て収穫し、食事に使ったりなどもしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新興住宅地内にあり、周囲には一般住宅、アパート、コンビニエンスストアがある。事業所理念の縁(えにし)を基に、介護計画目標を3ヵ月毎に定め、利用者本位の支援に日々取り組んでいる。自治会に加入し、現在ではコロナ禍で中断しているが、町内の清掃活動、廃品回収や小中学校などの交流会に参加している。利用者のケアに当たっては、担当制(各利用者ごとに担当職員を決めていること)を採用し、担当職員が窓口になり、利用者の家族やかかりつけ医などのやり取りを行い、収集した情報を管理者やケアマネージャーに伝えることで、家族や利用者の要望に則した介護計画の作成・見直しが行なわれている。以前は気軽に来所してお話をしていた家族、親戚、友人、近所の方などから手紙や年賀状が届けば、職員は利用者と一緒に返事を書いて関係が途切れないうち支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付く場所に掲示し意識付けを行っている	「縁」(今までの縁も、これからの縁も、大切に暮らし)を事業所の基本理念とし、理念に基づき作成された運営方針を毎日の朝礼で職員が唱和している。ユニット単位で短期スパン(3か月)の行動計画(「衛生管理の徹底」等)を立て、達成状況を毎月のユニット会議で振り返り、次の行動計画につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、今年度はコロナウイルスの関係で行事などには参加できなかった	以前は地域の小学生の慰問やチャグチャグ馬コの見物など、地域住民との交流や地域行事の見学の機会があったが、コロナ禍により現在は自粛している。自治会に加入し、以前は町内会の廃品回収に利用者も参加していたが、現在は職員だけが参加している。町内会の回覧板が回ってくるので、地域の主な情報は把握している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェなどは入居者を連れて行き、他のグループホームの方々と開催していたがコロナウイルスが拡大してきてからは、感染者状況を加味しながら職員のみ参加をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの感染状況を加味しながら開催をしており、意見や要望等をユニット会議内で報告し向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、メンバーは、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、地元交番の警察官、JAライフサポートの職員、訪問介護康済会の職員、入居者の家族、事業所の管理者で構成されている。事業所から、運営状況(「入退居の状況」「ヒヤリハット・アクシデント」等)を説明している。会議で委員から出された意見をユニット会議で職員に伝え、検討することにより、利用者に対するサービスの向上につなげている。コロナ禍のため書面開催が続いていたが、11月には集合して開催できた。書面開催の際の議事録には、各委員から出された質問・意見並びに事業所の回答が明記されている。	今後、対面で会議を開催する場合には、利用者も委員として出席できるような配慮を期待します。

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課・地域包括支援センターと連携を取りながら協力して頂いている	市直轄の地域包括支援センターの職員が運営推進会議の委員になっており、会議の際などに業務運営に関する助言を頂いている。市の高齢者支援課とは介護保険や感染症対策などについて、生活福祉課とは生活保護を受給している利用者について、電話、メール、対面でのやり取りにより、緊密に連携している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	眠りSCANやセンサーなどをご家族様に使用の説明と了解を得て、見守り機器を使いながら夜間柵などをしないようにしている。施錠に関しては、来客の方が検温をせずに入らないようユニットと玄関をつなぐドアは掛けている。特定の入居者は窓から出ようとする方がおり、ご家族様了解のもと窓を開けないよう鍵を追加している。	身体拘束適正化委員会は管理者、各ユニットリーダーで、3ヵ月毎に部内研修も兼ねて行っている。議事録を作成し、職員回覧及びユニット会議で周知している。転倒事故の恐れのある利用者については、家族の承諾を得て、夜間にセンサー(「人感センサー」「眠りスキャン」)を使用している。生活支援の中でスピーチロックがみられたときは、管理者が職員を個別に指導するとともに、ユニット会議で対応策を検討している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的には勿論だが、入居者に対しスピーチロックなどを行わないよう職員にも共有してもらっている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先々必要性があると判断した場合は家族に相談したり制度の説明をしたり、活用に向けて検討していただいている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にパンフレットや資料にて十分説明をし、了承を得た上で契約を結んでいる	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で聞かれた要望や意見などは職員間で共有しケアの向上に努めている	入居時に利用者と家族から今後の生活に関する要望を詳しく聴き取っている。利用者の要望は、日常生活の中で会話により把握したり、表情や仕草などから推察し、支援につなげている。家族が通院の付き添いなどで来訪したときに、意見、要望等を伺うようにしている。利用者ごとに担当職員を決め、より細かく家族に報告出来るようにしている。

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議のほか、普段の業務の中で意見や提案があれば検討し、利用者や職員にとって良いものであれば取り入れるようにしている。	職員間で何でも話せる雰囲気職場であり、日常業務での気付き(物品の更新・新規購入、業務改善など)により、気さくに管理者に意見を伝え提案を話している。提案内容はユニット会議で検討した上で、管理者が会社と協議している。昨年度に購入した「ごぼう体操」のDVDや「人感センサー」は、職員の提案を具体化したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの為に資格所得の際の費用の補助や研修受講、施設からの研修案内などをし、受講の際は業務上の配慮を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナウイルス感染予防の為積極的に研修等の参加はしませんでした。受講希望の研修など中止などもあり受講できませんでした		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オレンジカフェなどで他事業所の方と情報交換などは出来ているが、施設訪問までは行っていない		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人からの話や動向の中から把握する努力はしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの信頼を得られるよう普段からお電話やお手紙などで施設での状態を報告し、ご家族様からの要望も聞くように努力はしている		



事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	所長やケアマネージャーとも情報共有しながらスムーズに出来るよう努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に支援をするのではなく、本人が出来ることはご本人様に、難しい事は一緒にやるように心掛けています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で頻りに面会は難しいので、毎月のお手紙で情報を共有し、通院等の際日常のお話が出来よう努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂ける方や、連絡が来る方との関係継続の支援はしているが、それ以外は出来ない	コロナ禍の面会制限により、友人、近所の方などの訪問はほとんどない。家族や知人から手紙や年賀状が届けば、職員と一緒に返事を書いて関係が途切れないようにしている。2か月に1回訪問理容で訪れる理容師との交流は、外部の方と交流できる貴重な機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格が合わない方や、上手くいっていたのに急に喧嘩してしまったりなどありますが、席替えや職員が間に入るなど努力している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後連絡などがあれば相談や支援を出る範囲でしているが、それ以外の方などは出来ない		

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	みんなでレクの際など声掛けはするが、本人のしたい事やみんなとするのが苦手な方などは、本人から要望を聞きながら過ごしやすいように暮らせるよう対応している	会話によるコミュニケーションが可能な利用者については、会話により思いや意向を把握している。要介護度が高くなり会話が難しくなっている利用者については、問いかけに対する表情、仕草などから推察している。利用者は、職員とマンツーマンになれる入浴時に、思いを吐露することがある。把握できた思いは、その都度、パソコン端末に書き込むことにより、職員間で情報を共有し、介護計画に反映させ、利用者のやりたいことや思いに応えていくようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や、ご本人、ご家族様からの情報で把握はするが食い違っていることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの記録や送りなどで把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当とケアマネージャーご家族、御本人からのお話を聞き、ユニット内で職員からの意見も聞きながら	ケアマネージャーが、介護計画を作成している。入居直後は3ヵ月後に、その後は6ヵ月毎に見直している。毎月のユニット会議で、全ての利用者の生活の様子や心身の状態などを時間をかけて職員間で情報交換し、望ましいケアのあり方を検討している。各ユニット会議で日々のケア記録などから生活の変化を整理したモニタリングを行い、関係者(家族、利用者の担当職員、かかりつけ医など)からの情報や要望も加味してケアマネが見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、職員間で情報を共有し見直しに活かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲では行っているが、家族様が望まれている所までや、多機能化迄は難しい		

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの関係もあり、入居者が地域資源を利用することは控えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には施設での状況等の手紙を渡しながらの通院をしている。	多くの利用者は、家族の同行で入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。家族の同行で通院する際には、主治医あての「通院メモ」(利用者に関する特記事項を記録したもの)と「バイタル表」を家族に託している。訪問診療の利用者は4名で2週間に1度受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問看護をしてもらっており、夜間等も連絡が取れる体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	所長やケアマネージャーが窓口となり、情報共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来る事などは事前に家族にも伝え、ご家族様がどこまで望まれるか等早い段階から話し合いの場を持っております	事業所開設10年の間に両ユニット合わせて2人の利用者の看取りを行っている。終末期の延命治療に関し、「ご家族様意向書」を提出していただき、また重度化した場合には特養等への入所となる旨を入居時に利用者と家族に説明し、承諾を得ている。なお、その場合には、家族の意向や思いに寄り添いながら、近場の施設や病院のリストを提供し便宜を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルはあるが、まだ焦ってしまったり不安なところはある。		

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を行っているが、実際に発生した際に規模がどの程度かにもよるが上手く避難できるか不安がある	事業所は、ハザードマップの災害危険区域には該当していない。第1避難場所を敷地内の駐車場、第2避難場所を近場のコンビニとし、年2回火災等を想定した避難訓練を行っている。夜間想定訓練は行っていない。地域住民の協力を得るため、施設の概要と災害時の協力を要請する文書をポスティングしたり、避難訓練のときには拡声器を使用して協力を呼びかけている。災害時に備えて、缶詰等の非常食を5日分備蓄している。	夜間想定避難訓練を行い、課題を分析することにより災害への対応力を強化することが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段から心掛けてはいるが、咄嗟の時などの言葉遣いは気を付けなければいけない時もあった	運営方針の「その人らしさを理解した支援」に沿って、利用者を尊重した言葉遣い、居室でのプライバシー、入浴やトイレでの羞恥心への配慮等について、部内研修のテーマとしている。それでも、見守り職員が業務で多忙なときに、危険回避のため不適切な言葉がけ(制止する言葉がけなど)をすることがあれば、ユニット会議で振り返り、望ましい言葉がけについて話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方は大丈夫だが、なかなか出来ない方には、話し方を工夫するなどしながら対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	比較的自立できている方は問題ないが、介助や支援が多い方などは、職員の時間の都合で行ってしまうこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	限られた中ではあるが、更衣の際などは本人に聞きながら同じ服は着ないよう心掛けている		



事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べれる量や、メニューなどを気を付けながら行っている、準備などに関しては現在は一緒に行うのは難しくなっている	職員が献立ソフトを活用して、カロリーと栄養価を考えて献立表を作成している。生鮮食品は職員が近くのスーパーに買いに出かけ、その他の食材はインターネットで業者に発注している。利用者はテーブル拭きや下膳を手伝っている。誕生会や季節の行事(敬老会、クリスマス会など)の都度、特別食を提供し、利用者に喜ばれている。誕生会の特別食は、誕生月の利用者の希望を生かした献立にしている。利用者の状態に合わせて、「普通食」「とろみ食」「ムース食」を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立ソフトを使いながら気を付けている。特に水分に関しては、なかなか接種できない方は、食後にゼリーなどを提供し少しでも取れるように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛け、見守り、口腔ケア介助を行い、夜間は義歯などの消毒も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや誘導しながら行っている。薬などで排泄の管理をしている方もいるので様子を伺うこともある	全員がトイレを使用している。24時間シートとパイタル表で個別に誘導している。夜間のみポータブル使用は3名である。声掛けで自立を促し自立度が上がった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとってもらったり、朝食時など、牛乳やヨーグルトなど毎日提供するようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日ごとに入浴する人を決めていたが、体調や外出などで変動もある。時間帯などは午前、午後などの希望で変更はあるが、難しい時間帯などと希望に添えないこともある	入浴は週2回を基本としている。体調、利用者の希望などを聞き、順番に入浴している。特に通院の前日は入浴出来るよう配慮している。入浴は利用者がリラックスできる時間となっており、1人当たり40分から50分程度の時間をかけ、マンツーマンで介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら何時でも横になって頂けるようにはしている。冬季などは個々の居室にも加湿器を置くなどしている		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ては覚えきれていないので職員がすぐに見返せるように、入居者ごとにお薬情報をまとめている。下剤などは排泄の有無で調整も必要なので特に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来ること、楽しめることを出来る範囲でやってもらっている(娯楽はパズルやぬり絵、歌など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で外出に関しては通院程度になってしまっている	コロナ禍で殆ど外出することがなくなっており、本年は、ドライブを希望する数名の利用者が、6月頃に職員に付き添われて小岩井方面に出かけている。家族の付き添いでかかりつけ医に通院したり、通院の帰路に自宅に立ち寄りすることが貴重な外出の機会になっている。敷地内の畑で野菜を栽培したり、収穫するために、戸外に出ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は自分で財布を持っている。ご家族様より本人が落ち着かないとのことで了解をされており、月に一度職員2人体制で残金の確認は行っている、本人の必要物品は預り金より購入しているので、使える支援は出来ていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は取り次いだりするが、本人からの要望がなければこちらから電話はしていない。お手紙などは来た際や年賀状などは支援し書いてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が休んだり、楽しんだりできるよう心掛けている。食席に関しても性格上合うあわないなどもあるので気を使っている。施設内も温度だけでなく、空気清浄機や加湿器等を使いながら過ごしやすいよう心掛けている	白色基調のホールは広く明るく開放感があり、一角には畳のコーナーも設けられている。エアコンと加湿器で室内の温度と湿度は適切に管理されている。感染症に罹患しないよう、空気清浄機も設置されている。コロナ禍のためフロアで過ごす時間が多く、職員は工夫を凝らしてパズルやゲーム、ごぼう体操で楽しく過ごしている。壁面にはクリスマスリース、棚にはミニのクリスマスツリーで飾られており、季節感のある居心地のよい空間になっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(あやめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるようにしている。孤立しないよう声掛けなども行い拒否があれば自分の好きな場所で過ごしてもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたものや、ご家族の写真なども居室に置いたりしている。お部屋には今の時期は加湿器を置き、乾燥しないようにしている	介護用ベッド、クローゼット、洗面台、エアコン、加湿器が備え付けられ、居室の入り口にはメモリアルボックスがあり、自分の思い出の品や写真などを入れ、表札替わりになっている。衣類等を収納するためのクローゼットも予め備え付けられ、自宅から持ち込んだ私物をクローゼットに収納できるため、室内は広々としており、地震で家具が倒れて怪我をするリスクはない。ベッド周りは広く、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所やトイレには目印を付け、一人で行く際もわかるようにしている。		